

1 a 家族
b 念頭
c 次元

2 A ラ B が C 歩 D 移
3 I 思い II 真剣
(完答)

4 X エ Y ア
(記述題)
5 (記述題)
6 エ
7 率先避難者

8 (記述題)
9 エ
10 受身の考え方

2 1 a 小節
b 勇氣
c 相反する

2 A イ B ウ C ア
3 心配
4 イ
5 ア

6 I オンチ II 迷惑
(完答)
7 (記述題)
8 新しい

9 ウ
10 ゴメン
11 ア
(同意可)

1 5 率先避難者として自分と周囲の命を守ること。
(同意可)

8 科学的にも予算的にも、災害を完
全に防止することは不可能なので
、現実には災害をできるだけ減ら
すこと。しから。

(同意可)

2 7 いつも自信たっぷりが目立つのが大好きな晴美を
ネガティブにしてしまったのは自分だと思ひ、つ
らくいたたまれない気持ちになっている。
(同意可)

配点	1	1
その他	5	8
	2	2
	7	1
		2
各2点×13	各6点×3	各4点×14
26点	18点	56点

1

- 1 a 「家族」の「族」を「旅」などと混同しないように気をつけよう。b 「念頭」は考えの中ということ。「く」に置く」との組み合わせで覚えていこう。c 「次元」はここではレベルや種類のことと考えればよい。「次元が違う」や「異次元」のような言い回しを知っておこう。
- 2 Aの「インフラ」はインフラストラクチャーの略語で、生活や産業の基盤となる施設などのこと。ライフラインと合わせて覚えておくとよい。Bの「言わずもがな」は言う必要のないこと、言うまでもないこと、言わないほうがいいこと。Cの「一人歩き」は勝手に広まっていくこと。Dについては同訓異字を確かめておこう。
- 3 次の文を受けて「だからこそ、辻説法なのです」と書かれているので、次の文を軸に考えればよいだろう。地声で話すことの一つ目の意味といってもよい。
- 4 X そのときの状況に応じて柔軟に対応するさま。
Y 続きの「長年にわたって……」にあたる内容。災害への備えを継続することの難しさ。
- 5 次の次の段落の締めくくり「……最後にたよれるのは『声』です。大声が必要になるのです」が明示的な根拠と言える。傍線部直後の「たとえば」以降を、話題を意識して読み進めることが肝要である。
- 6 直前の段落と選択肢を対照する。率先避難者がいれば、少なくともその人が救われ、もしかしたら多くの命が救われるが、率先避難者になるべき人がその場に留まってしまつてしまうと、多くの人が救われないだけでなく、当人も亡くなってしまうので、「合理的に考えれば」まずは自分の身を守ることが最も多くの人の命を救う可能性につながるのである。「知識があつたら」と「率先避難者」を結びつける。
- 7 「知識をつけ身を守る行動につながられる人」、そしてその人が「率先避難者」になることで多くの命を救いたいと考えているのであつた。
- 8 「このような」とあるので、まずは直前の意味段落を確認する。そこをまとめれば答えになるだろう。
- 9 空所からの三段落ほどで繰り返し述べられているのは「たつたいま、自分ができることから始める」ということである。「行動」というまとめ方ができるとよい。「いま」や「始める」ということから「変える」も読み取れるだろう。
- 10 「お上」という言葉が知らなくても、字面から判断して、「偉い人や専門家あるいは役所」くらいの意味だろうと判断しておく。「指示を待つて」という単語レベルでの一致も見逃せない。

2

- 1 a 「小節」は楽譜上の区切り。「小説」としないよう、文脈から判断してほしい。b 「勇氣」はここでの「くづける」のような言葉としても覚えておこう。c 「相反する」はお互いに相手と異なっている関係、つまり簡単に言えば正反対ということ。「そうはん」という二字熟語と解釈してもほぼ同じ意味だが、「あい・はんする」という言葉も覚えておこう。
- 2 Aは打ち消しの補助形容詞、Bは存在しないことを表す形容詞、Cは打ち消しの助動詞。
- 3 直前をたどり、「矛盾」の具体的な中身を確認する。岳の言動にある「脚だいじょうぶ？ とかないわけ？」と「別にお前に心配してほしくないわ」は「矛盾」していて、「心配してほしいのかほしくないのか」わからなくなっている。文章全体を考えると、本当は心配してほしいのだが、素直になれないというところであろう。
- 4 直接的には隼人の「がつくんも、あやまんなきやダメだよ」を受けている。ただ、直前に書かれている心境を受けたものなので、間接的にはその箇所と整合的なものは「読み込む」ことはできるだろう。いわゆる文脈を把握しておくことが肝要である。
- 5 「そして今」や「さらに」とあるので、直前の「うなだれた」とは別だと考える。したがって、直前部ではなく、直後をとる。「あいつ、オンチのこと気にして、歌ってないのかも知れない」をかなり言いかえてあるので、そういった検証もこなせる語彙力をつけていこう。
- 6 直後の会話から「出来ないよ。みんなに迷惑かけちゃう」が軸であることがわかる。では、なぜそう考えるのかと考えを進め、オンチを気にしているということと結びつけよう。
- 7 「岳の胃のあたりが、きりきり締めつけられた」からの教行をひとまとめに読み、まとめていく。直後の心の中での発言も参考にして方向性を考えよう。
- 8 歌詞がさまざまなできごとの象徴になっているのだが、ここにあてはめれば「はじめはひとり孤独」↓「出会い」↓「新しい本当のわたし」という流れが、「歌に自信がない」↓「早紀と晴美の歌声の出会い」↓「新しい音楽」と対応している。
- 9 晴美とのいさかきを気にしているのはもちろん、意地を張ってクラスにも溶け込めないということが直前に書かれていた。複合的な心情の箇所から不適当なものを選ばせる出題にも慣れていこう。
- 10 問4にあつたことだが、「あやまんなきやダメだよ」に対して「……だよな」と思っていたのである。保育園のころのことを「脈絡もなく」思い出ししていることや前後のタオルのやりとりからも、自分が傷つけ、あやまれなかった箇所と結びつけたい。また、この後のやりとりからは仲直りし、岳が落ち着きを取り戻した姿が読み取れるので、やはり謝罪の言葉が入るのではないかと考えられる。
- 11 表現効果や象徴的な事物が問われているときも、まずは本文との照合を行い事実確認をとっていく。